

協議会だより

DHA・EPA協議会

〒151-0062

東京都渋谷区元代々木町 32-7

一般財団法人日本水産油脂協会内

TEL & FAX: 03-3469-6931

URL: <http://www.dhaepa.org/>E-mail: dha_epa@par.odn.ne.jp

事務局 南部 章

サンマについて

秋の季語に秋刀魚があります。七輪に網を載せ、煙を立てながら炭火でサンマを焼く光景を思い浮かべてしまいます。最近ではコマーシャルや映画のシーンでしか、お目にかかることがなくなっていました。

サンマには DHA、EPA をはじめ栄養成分が豊富で、価格も安く日本の秋を代表する味覚ではないかと思えます。

今回はサンマについてご紹介したいと思います。

今年はサンマの不漁が言われております。(一社)漁業情報サービスセンターの統計によりますと、2014年のサンマの水揚量は20万4千トンありましたが、2015年には10万1千トンに減少してしまいました。今年は9月中旬までの水揚量が昨年を下回っており、今後の漁模様に期待したいところです。

サンマの寿命は2年程度で、もともと資源変動の大きな魚種と言われておりますが、マスコミ等では公海における外国漁船の影響が指摘されています。外国船による漁獲量が増え始めたのは2000年以降ですが、特に台湾による漁獲量が多く、2013年には18万トンと日本の漁獲量(14万9千トン)を超えました。その他では、韓国が2万トン前後、ロシアは5万トン前後になっています。また、ここ数年は中国漁船による漁獲も増加しています。公海で漁をする台湾・中国の漁船は大型化が進んでおり、船内で漁獲物を冷凍し、それを運搬船で運んでいますので、サンマが移動してもそれに併せて漁場を変えることができます。

外国漁船による漁獲圧の増加が、日本沿岸におけるサンマの不漁原因に思われますが、しかし、必ずしもそれだけが原因ではないようです。

東北区水産研究所によりますと、サンマの分布海域が日本から遠くなっており、漁期が始まっても日本近海に近づいて来るまでに時間がかかるということです。外国漁船とは異なり、日本の漁船はサンマを氷蔵して港に水揚げしており、選別や箱詰めは陸上の流通加工業者が行っているため、鮮度を保つためには1週間程度しか航海ができず遠くまで漁に行くのが難しいという事情もあるようです。また、今年は親潮の流れが変化し、漁場となっている沖合の更に東をサンマが南下し、沿岸への来遊量が減ってしまったと考えられています。

いずれにしても、これだけサンマを獲る国が増えてきますと、当然、資源管理が問題になります。日本だけが漁獲規制をしても有効な手立てを打つことができず、各国の協調が必要になってきます。サンマの資源をめぐるには、日本、アメリカ、韓国、ロシア、カナダ、中国、台湾が参加して「北太平洋における公海の漁業資源の保存及び管理に関する条約」が2015年7月に発効し、サンマ資源は国際的な管理対象の一つになりました。

適正にサンマ資源が持続され、今後も秋の味覚を楽しむことができるようお願いしたいものです。

《幹事会のうごき》 平成28年9月8日(木)15:00~17:00に一般財団法人日本水産油脂協会新館において平成28年度第5回幹事会が開催された。

- ・次年度は本協議会設立20周年に当たり、その記念事業の一つとして会員各位に紹介している論文に簡単な要旨・執筆者を加えてリスト化したものを配付する案が述べられた。
- ・東京ビッグサイトで開催される「食品開発展2016」において、ポスターを掲示することにした。